

# 新生マナビラボ宣言！

中原 淳  
高井靖雄



## きっかけは4年前・・・

### ■人材開発を専門家として格闘する日々、ふとした疑問

- ・ 企業で「教育機関のその先」を見続ける
- ・ 35歳のミドルリーダーになぜリーダーシップを教えるのだろうか？
- ・ 40歳のオジサマたちに、なぜロジカルシンキングを教える？
- ・ なぜ、この人たちは、仕事で必要なことを学んでこなかったんだろう？

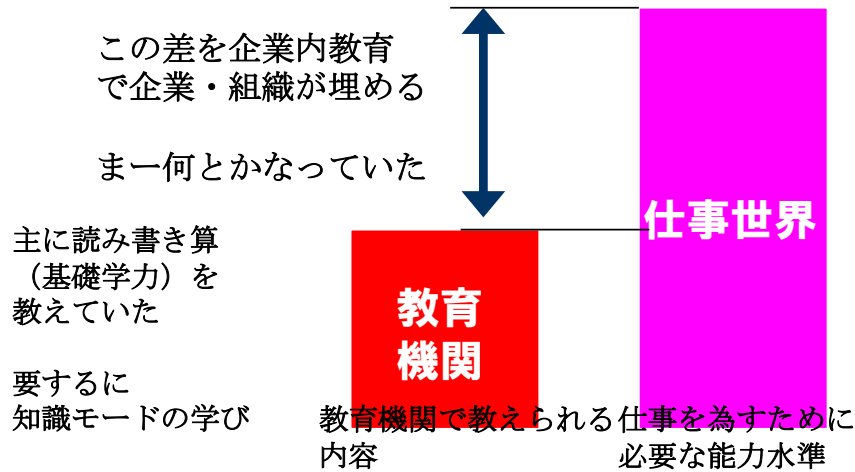
### ■「教育機関と仕事領域の接続」を見直すべき

- ・ 教育機関の学び方の変革と内容の見直しがあるのではなからうか・・・
- ・ 今さら「教育の領域」に首を突っ込むのは、と逡巡してしまうところもあった！

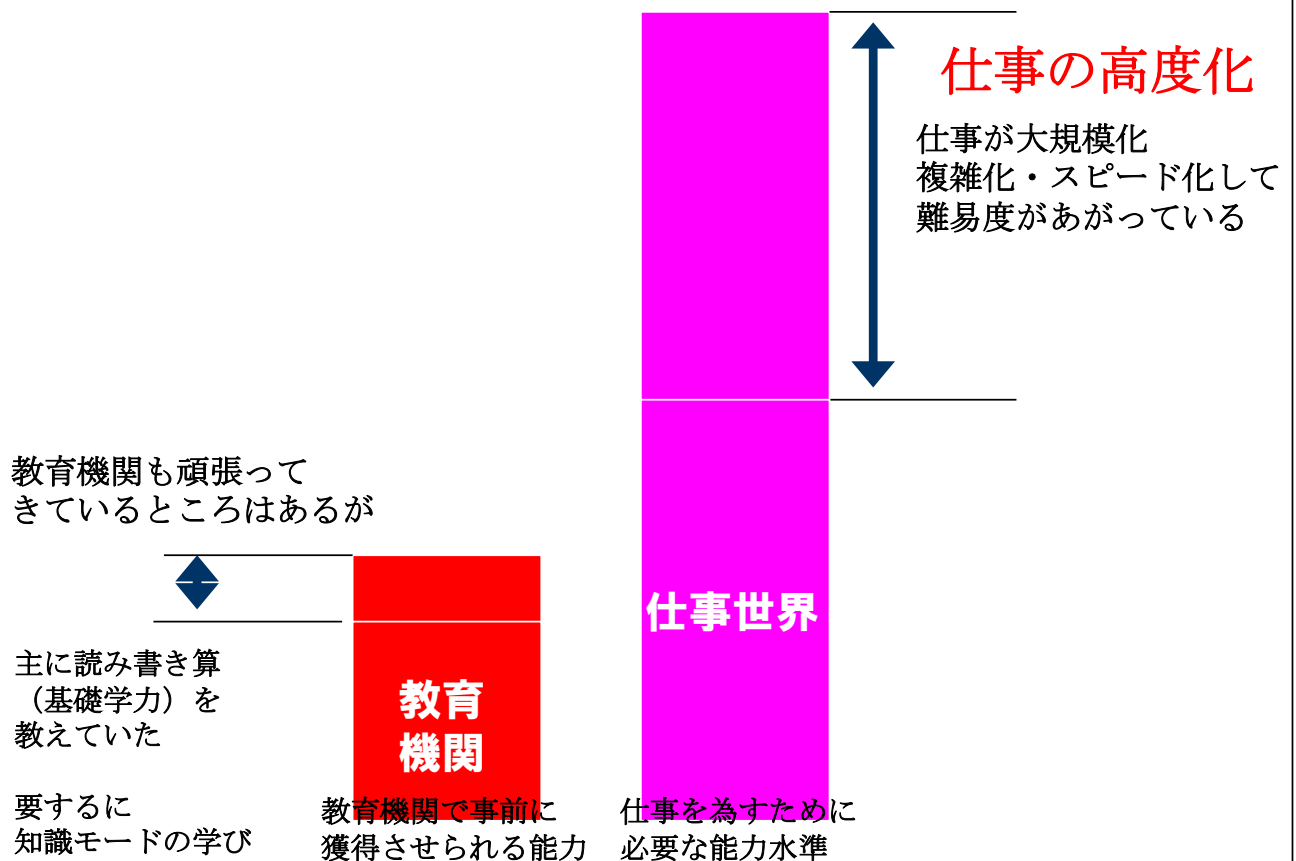
これまでの教育機関と仕事領域の接続は・・・



# かつての教育機関—仕事世界の接続は・・・



# 今現在の教育機関—仕事世界の接続



# 今現在の教育機関—仕事世界の接続

この段差がありすぎる  
教育機関で  
基礎学力を教えるだけ  
でなく、もっと前倒して  
学んで欲しい

仕事の高度化

仕事が大規模化  
複雑化・スピード化して  
難易度があがっている

教育機関もカリキュラム革新  
伸びてはいるが十分ではない

主に読み書き算  
(基礎学力)を  
教えていた

教育  
機関

仕事世界

そんなことで、高等教育を研究していた溝上慎一さんと出会う！  
大学と企業と接続を考え直しましょう！



京都大学 溝上研究室×東京大学 中原研究室  
でも、衝撃的なことが・・・



## アクティブトランジション

働くためのウォーミングアップ

おおよそ、**43.5%の学生**は、大学生のときも、高校生のときも、将来のことを何も考えてはいないし、そのために何もしていない

高校のときに決まってる、大学生になっても変わらない

将来のことを考えている学生と、そうでない学生の二極化

そうか・・・大学じゃ遅いんだ・・・

**仕事をみすえた高校の研究**をしよう！

そんな思いを旨に・・・河合塾様へプロポーザルをお持ちし、プロジェクトを立ち上げました！  
それが「高校のアクティブラーニング」プロジェクト



就職・進路指導に関わる教職員、企業の採用担当者の方々にお集りの一冊

溝上・中原・館野・木村（2014）



## 高校の枠を超えた学びを応援する

高校におけるアクティブラーニング型授業  
推進のための高大連携プロジェクト

1

### 数字：高校の授業の実態を数値化

全国の普通科またはそれに準ずる学科および総合学科を有している**すべての高等学校（3,893校）**を対象とした日本初の大規模アンケート調査を実施。  
計**49,864名**の教員が回答。

2

### 物語：授業実践を再発掘

教室や教科、高校の枠を超えて**生徒たちが自ら学び続けるアクティブ・ラーナーになることを支援する授業**を展開している全国の高校の先生を訪ね、授業見学およびヒアリングを通じた**個別調査**を実施。

3

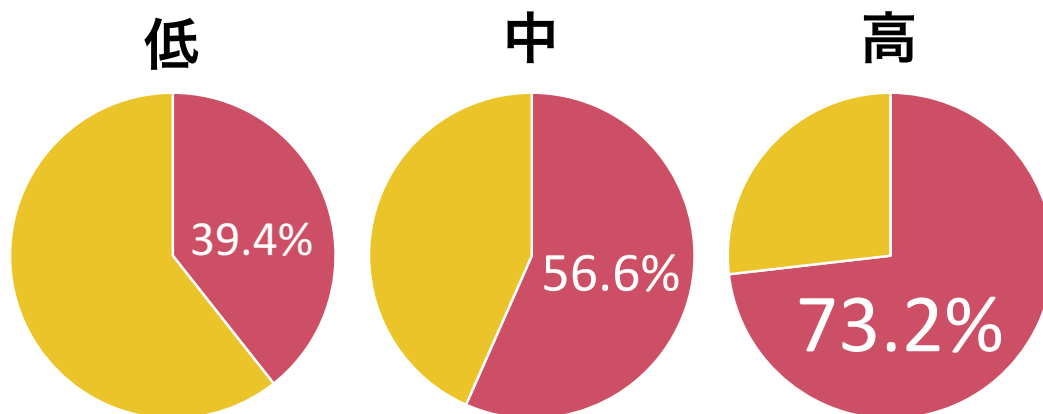
### つながり：コミュニティづくり

全国実態調査の分析結果や、個別調査を通して収集した授業の事例の紹介をはじめ、学びに関する理論を解説するなど、



高井さん、その当時、3年前を振り返るといかがでしょうか？  
2年目くらいになると、あることに気づいてくる

## アクティブラーニングを「面＝組織ぐるみ」で行うことの重要性



- カリキュラム・マネジメントできている（＝教育課程や授業内容の評価・改善に組織的に取り組んでいる）学校の方が、アクティブラーニングの実施率が高い

この分析結果を見たとき・・・20年前を思い出しました

## 20年前の思い出

### 「総合的な学習の時間」の導入時

#### 個人で頑張る熱心な先生方

- ・ 個で実践を追求する
- ・ 全国をボランティアで行脚
- ・ 次第に「疲労感」
- ・ なぜ「同じ熱量」がないのか？

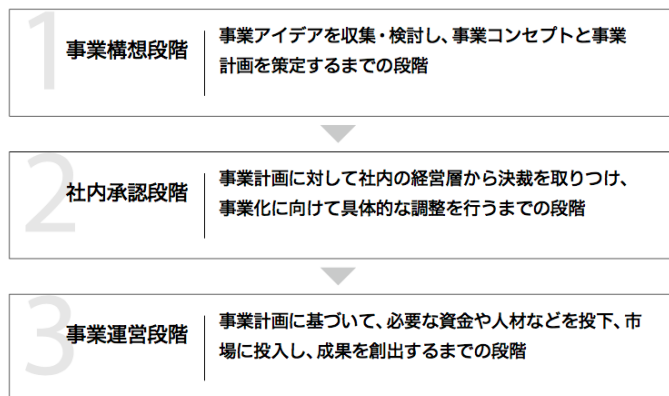
個人が頑張るモードだけではマズイのでは？  
組織で頑張るモードへの移行が必要かも

アクティブラーニングの教育論から組織論へ  
「点」から「面」へ  
企業研究では、こんなことが言われていた……



# 組織のなかで新しいこと為すためには3つのプロセス

図表5 新規事業の3つのフェーズ



田中聡・中原淳著(2018)「事業を創る人の大研究」クロスメディアパブリッシング

もっともシンドイのは「社内承認段階」  
社内承認段階には「反対」がある

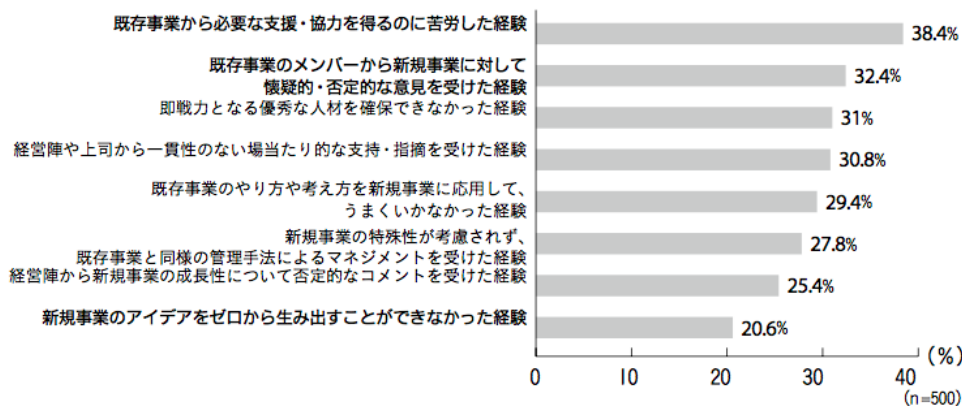


# 新たなことは「組織」が障害になる

図表17 新規事業を創出する上での課題

Q 新規事業は「斬新なアイデアがあればうまくいく」説は本当か？

A アイデアの創出より、社内の理解・巻き込みに苦戦している。



出所：田中聡・中原淳(2017)「事業を創る人と組織に関する実態調査」

田中聡・中原淳著(2018)「事業を創る人の大研究」クロスメディアパブリッシング

学校に置き換えるならば、新しい学び、教え方を  
いかに広めるかは「学校づくり」がキーになる  
ここまでが「これまで」



# 新生マナビラボ宣言！！アクティブラーナーを 生み出すための「学校づくり研究」を強化

①データにもとづく  
カリキュラムマネジメント手法  
を開発研究します

どこでも誰でも利用できるツールや手法を開発  
パートナー校、委員会、開拓中！>河合塾さま

②全国調査・事例収集  
をこれまで同様継続

イメージできないものは  
マネージできない

③次世代の  
校内リーダー研修開発

ケースメソッドを活用した研修など

河合塾様、JCERI様の協力をたまわりながら、  
さらに力強く活動します！

高井さん、今後3年間は、成果、展望、めざしたいものは？  
溝上さんとともに、さらにサミットを拡充！

## 「サミット」から「フェス」へ



8月9日・10日、2日間開催！  
1000人規模の「学び」の祭典

# 2030年を見通したワークショップ

文部科学省後援：未来のマナビフェス実行委員会主催

- ・導入講演：
  - ・溝上慎一（京都大学教授）
- ・基調講演
  - ・田熊美保・（OECDシニアアナリスト）
  - ・白井俊（文部科学省）
- ・ベーシック講義：
  - ・松下佳代（京都大学教授）
  - ・内村浩（元京都工芸繊維大学教授）
  - ・田中研之輔（法政大学教授）
  - ・山辺恵理子（都留文科大学講師）
  - ・石井英真（京都大学准教授）
- ・大学事例セッション：
  - ・石山恒貴（法政大学教授）
  - ・館野泰一（立教大学助教）
  - ・布柴達男（国際基督教大学教授）
  - ・山田剛史（岡山大学教授）
  - ・河井 亨（立命館大学講師）
- ・高校企画セッション
  - ・三浦隆志（岡山県立林野高校校長）
  - ・真下峯子（大妻嵐山女子中学高校校長）
  - ・吉野 明（鷗友学園中学高校校長）
  - ・下町壽男岩手県立花巻北高校校長）
  - ・佐藤 透（桐蔭学園入試広報部長）
- ・企業セッション：
  - ・田中聡（パーソル総合研究所主任研究員）
- ・参加者の大学  
高校の合同ポスター発表セッション
- ・2日間のふり振り返りワークと小括講演：
  - ・溝上慎一（京都大学教授）
  - ・森 朋子（関西大学教授）
  - ・児美川孝一郎（法政大学教授）
- ・総括講演
  - ・中原 淳（東京大学准教授）

## 1000人規模で行うポスターセッション

高井さん、こちらにかける思いはいかがですか？

わたしたちは、かくありたい

未来の学びの「探究者」

未来の子どもたちの「応援団」

未来の教育現場を「元気」  
にするささやかなお手伝い

ともに「現場で格闘」したい



# 未来を生きる子どものための 「世直し」である

完



そして人生はつづく  
立教大学、河合塾、JCERIさまで動かす  
新生マナビラボをどうかよろしくお願いいたします！